



〈研究〉英國ノ産業革命當時及其後ニ於ケル經濟思想 ト産業政策トノ關係(2)

石澤, 久五郎

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 23(6):989-1000

(Issue Date)

1917-12

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052815>



英國ノ産業革命當時及ビ其後ニ於ケル

經濟思想ト産業政策トノ關係 (其二)

ドクトル、オア
フイロツファイ

石澤久五郎

六

アダム、スミス及ビ同一系統ノ學者ノ經濟思想ハ個人主義ニ基ケル無干渉自由放任主義デ、勞力及ビ資本ガ自由競争ノ下ニ置カル、トキニ、利己心ハ自動的ニ是等ノ勞力及ビ資本ヲ働カシテ最大多數ニ最大幸福ヲ與フルヤウニナルモノデアルトイフコトハ上來已ニ叙説シタコロデアアル。コノ經濟思想ハ産業革命期(一七六〇—一八三〇)及ビ其後ニ於ケル多數ノ人心ヲ支配シタ、ソノ結果トシテ穀物關稅法ハ廢棄セラレ、佛國トノ間ニ「コブデン」商業條約ハ締結セラレテ、コ、ニ英國ハ自由貿易國トナリ、從來今日ニ至ルマデ個人的自由主義ノ經濟思想ハ英國ノ對外商業ヲ支配スルノ勢力トナツタ、更ニコレノミニ止ラズ自由主義ノ經濟思想ハ産業革命ノ洗禮ヲ受ケテ、手工業カラ機械工業ニ轉進シタコロノ諸産業ニ何等拘束ノ加ヘラル、コトナク自由ニ發達シ得ルノ餘地ヲ與ヘタ、即チ産業革命當初ノ資本主又ハ企業者ハ新ラシキ機械ノ使用ト共ニ勞力ヲ最モ低廉ニ購買シテ極力ソノ生産力ヲ大ナラシムルコトニ努メタ、從ツテ勞力提供者タル勞働者ノ健康狀態及ビ生活狀態等ニ顧念スルノ遠慮ハナカツタ、而シテ無干渉自由放任主義ノ經濟思想ニ對スル反動ハコ、カラ

起ルコト、ナツタ。

クリカヘシテ言フガ、工場法ノ創設及ビソノ繼續的ノ改定修補ハ十九世紀ヲ通ジテ始終行ハレタコトハ明カニ産業ニ對スル國家ノ干涉デアル、故ニ無干涉自由放任主義ノ經濟思想ニ反スルモノデアル。又勞働組合運動ノ承認及ビソノ發達ハ産業革命以後ニ起ツタ最モ注意スベキ經濟現象デ、是亦個人的自由主義ノ經濟思想ト相容レザルモノデアル。サレバ工場法ノ創設及ビ勞働組合ノ承認ハ自由主義ノ經濟思想ニ基ケル經濟政策ガ全般ニ、又到處ニ普ク行ハルベキモノデハナイトイフコトヲ事實ニヨツテ立證シタモノデアツタ。

サテ『重商主義及ビ重農主義ノ兩學派ハ今日ト雖モ猶存立シテ居ル、而シテ種々ナル名稱ノ下ニ現代國家ノ經濟政策ヲ支配シテ居ル、貿易上ニ加ヘラル、政府ノ干涉、關稅ノ賦課、保護制度ノ採用、鐵道、郵便、電信、電話ノ政府專營、(トラスト)勞働組合及其他ノ監督——總テ是等ハ重商主義ニ基クトコロノ(保護干涉)政策デアアル、他ノ一方ニ於テ自然自由主義ノ思想ガアル、コノ學派ハ自由貿易主義、制限的關稅ノ撤廢、個人活動ノ無拘束自由ヲ主張シテ居ル、シカシ今日我等ハ重商主義又ハ重農主義云々トイフコトヲ聞カヌガ、其等ハ保護主義、又ハ自由貿易主義ノ名ニヨツテ相互ニ消長シテ居ル』ト論評セラル、ガ如ク、無干涉自由放任主義ノ政策デ國家保護干涉主義ノ政策トガ實際問題トシテ交錯消長シテ居ル。シカモ尙十九世紀ヲ二分シテソノ前半世紀五六十年ガ無干涉自由主義ノ經濟思想ガ一般ニ是認セラレタ時代デアリ、ソノ後半世紀四五十年ガ國家干涉主義ノ經濟政策ガ經濟的發展上カラ必要缺クベカラザルモノトシテ論議セラレ、又漸次採用セラル、ニ至

ツタ時代デアルト觀測スルコトガ出來ル。而シテコノ兩思想ノ相互ニ推移シ消長スルトコロノ過渡期ニ於テ經濟思想轉換ノ役割ヲ勤メタトコロノ學者ハジョン、スチュワート、ミルデアツタ。

英國ノ産業革命ハ蒸氣機關及機械ノ四大發明ヲ直接ノ原因トシテ十八世紀ノ後四半世紀ニ始マリ十九世紀ノ前半期ニカケ家内工業カラ工場工業ニ推移シタ急激ナ經濟的變化デ、ソレガ舊經濟學派ノ無干渉自由放任主義ノ經濟思想ニ助ケラレテ自由ニ行ハレタ、更ニ言ヒ換フレバ舊經濟學者ハ無干渉自由放任主義ヲ主持シテ如何ナル拘束ヲモ排斥シタ關係カラ自然ニ新タニ生ジタ資本階級ノ味方トナツタ、而シテ常ニ干渉政策ニ反對シタ、從ツテ所謂資本階級ヲシテ産業革命ノ經濟的變化ニ順應シテ容易ニ工場工業ニ推移スルノ便宜ヲ得セシメタ、ソノ結果ハ大ニ生産力ヲ増大セルコトデアツタ。乍併コレトトモニ資本階級ニ對シテ新ニ生ジタル勞働階級ヲ經濟的弱者ノ地位ニ立タシメテ、生産上彼等ノ生活ヲ犠牲トスルノ悲惨ナル弊害ヲ醸生スルコト、ナツタ、而シテコノ弊害ヲ除去スルタメニ他動的ニ起ツタトコロノモノハ工場立法デアツタ、自動的ニ起ツタトコロノモノハ勞働者自身ノ勞働組合運動デアツタ、舊經濟學派ノ學者ハ無干渉自由放任主義ノ立脚地カラ常ニコノ工場立法及ビ勞働組合運動ニ反對セシコトハ既ニ叙說シタ通りデアツタ、而シテコレガ十九世紀ノ半世紀五六十年間ニ互ル大體ノ狀勢デアツタ。

七

ジョン、スチュワート、ミル（一八〇六—一八七三）ハ舊經濟學派ノ高唱シタ無干渉自由主義ノ個人的經濟思想ヲ繼承シ、且ツソノ思想ヲ大成シタトコロノ經濟學者デアツタ。乍併彼ハ固定セル思

想ニ執着スルノ學者デハナカツタ。而シテ社會ニ對スル彼ノ銳敏ナル觀察力ハ彼ヲシテ從來ノ舊經濟思想ヲ改メシムルコト、ナツタ、次ギノ一節ハ彼ノ大著『經濟原論』ヲ結びタル最後ノ一節デ、無干渉自由主義ノ經濟思想カラ轉進シテ國家ノ積極的職分ヲ認ムルヤウニナツタ、彼自身ノ意見ヲ最モ明カニ表示シタモノデアル。

『社會ガコレ迄ニ達シタトコロノ最善最良ノ狀態ニアツテモ、如何ニ世界ニ於ケル總テノ努力ト才能トノ大部分ガタゞ相互ニ無用化スルタメニ使用セラレテ居タカラ考ヘザルヲ得ヌノハ遺憾ノコトデアル。サレバ今日互ニ他ノ者ヲ毀害スルタメニ、又ハ他ノ毀害カラ自己ヲ防禦スルタメニ用キラル、トコロノ精力ヲ、人間機能ノ正當ナル使用ニ轉向シ、及ビ自然力ヲ更ニ生理的及ビ道義的善ニ服從セシムベク強要シ得ルガ如キ方法ヲトリテ、コノ不幸ナル消耗ヲ出來得ルダケ最少限度ニ減縮スルコトハ政府本來ノ目的デアル』

カクシテミルハ從來ノ無干渉自由主義ヲ固守スルゴトナシニ國家ノ積極的職分ヲ必要トシテ是認スルコト、ナツタ。彼ハ(一八四八年出版ノ經濟原論ニ於テ)從來ノ慈善的教育制度ノ不完備不充實ナルヲ論ジテ國家教育ノ必要ヲ主張シタ。彼ハ私有財產制ヲ人類ノ幸福及ビ進歩ノタメニ必要ナルモノト認ナガラ、尙國家ハ社會ノ一般の福利ノタメ必要ナル場合、例令バ鐵道ノ敷設、又ハ新道路ノ開設等ノタメニ自由ニ土地ヲ處シ得ルコトヲ力說シタ、又ミルハ始メリカルドノ學說ヲ祖述シテ賃銀基金說ヲ奉ジテ居ツタ、乍併彼ハ千八百六十九年ニ於テコノ學說ヲ放棄シタ、彼ノ勞働者ニ對スル同情ハ國家ノ積極的職分ヲ是認セル經濟思想ノ展開ト共ニ合理的ノモノトナツタ、而シテ賃銀基金說放棄ノ當然ノ結果トシテ勞働組合運動ヲ承認シタ、又タ彼ハ始め社會主義ニ反對シ、且ツ冷

評シテ居ツタ、乍併其後虛心坦懷ニ幾多ノ研究ト考慮トヲ重キタル後、社會主義ニモ則ルベキモノアルヲ覺リテ、ソノ所説ヲモ寛容ノ心ヲ以テ取扱フコト、ナツタ。猶ホ彼ハ個人主義ヲ窘窮シ、自由競争ヲ無用視シ土地ノ國有ヲ主張スルコロノ極端ナル社會主義ヲ謳歌スルモノデハナカツタ。

コレヲ要スル彼ハ國家ノ積極的ポジティブ・アクティヴ職分ボジションヲ是認シ、勞働階級ニ大ナル同情ヲ寄セナガラモ、猶、

彼ノ中心思想デアル個人主義、無干渉自由放任主義カラ全然離ル、コトナシニ、ナルベクハ政府ノ干渉ヲ已ムヲ得ザル社會ノ一般的福利ノ場合ノミニ限リテソノ適用ヲナルベク少カラシムルコトヲ所期シテ居ツタ、從ツテ彼ハ彼自身、無干渉自由主義カラ國家干渉主義ニ移シナガラ、猶無干渉自由主義ニ低回シテ居ツタ過渡期ノ經濟學者デアツタ。

既ニ屢々叙述シタ如ク、産業革命以後ニ於ケル十九世紀ハ個人主義ノ時代デアツタ、殊ニ其前半世紀五六十年間ハ主トシテ無干渉自由主義ノ思想ノ優勢デアツタ。乍併早クモ前半世紀ニ於テ幾度カ議會ヲ通過シタコロノ種々ナル工場法律ガ統合工場法 (Factory and Workshop Consolidation Act) ニ統一セラル、ヤウニナツタノハ後半世紀ニ入ツテカラデアル、而シテ如斯國家ガ干渉政策ヲ

トルニ至ツタノハ社會ノ一般的福利ヲ増進スルノ道トシテ工場工業制ノタメニ低下シ、又ハ低下セントシツ、アル勞働階級ノ地位ヲ維持シ、又同ジク退化シ又ハ退化セントシツ、アル彼等ノ生活狀態ヲ改進セシムルノ必要ヲ感ズルヤウニナツタカラデアル、而シテコノ干渉政策ハ後半世紀ニ於テ一般ニ承認セラレタコロノ事實デアツタ。國家ガ干渉主義ヲトツテ勞働者ヲ保護スルヤウニナツタト同時ニ他ノ一面ニ於テ勞働者ハ自己ノ利益ヲ保護スルタメニ勞働組合ノ組織ニヨツテ資本主ニ對抗スルノ運動ヲ始メタ、而シテコノ勞働組合運動ノ公然確認セラル、ヤウニナツタノハ矢張後半

世紀ニ入ツテカラデアル、是ハ彼等階級ノ福利ヲ保護スル上ニ於テ必要已ムヲ得ザルノ方法デアツタ、ミルガ社會改良ノ必要ヲ感ジ、無干涉自由放任主義ニ多少ノ制限ヲ加ヘテ國家ノ積極的職分ヲ認ムルヤウニナツタノハ社會上經濟上ノ歸趨ヲ看取シタ、メデアル、而シテコレト、モニ彼ハ勞働者ノ同情トナツタ、トインビーモ熱心ニ社會改良ヲ希望シタ、勞働問題貧困問題ヲ研究シタ、而シテ勞働者ノ味方デアツタ、乍併兩者トモ社會主義者デハナカツタ。

八

勞働組合ノ組織ハ已ニ公然ト確認セラル、コト、ナツタ、而シテ社會主義思想ノ傳播及ビソノ運動ハコノ勞働組合運動ト密接ノ關係ヲ有スルモノデアル。

サテ英國ニ於ケル社會主義運動ノ端緒ハマゾロバート、オーエンガ社會改良ノ理想ヲ行ハントシタ運動ニ求ムベキデアル、而シテ彼及ビソノ一派ガ一ノ協會ヲ組織シ屢々討論ヲ試ミタル際ニ「ソシアリスト」及ビ「ソシアリズム」ナル言葉ヲ使用シタ、從ツテオーエン一派ノ社會改良說ノ名稱トナリ、更ニハ大陸諸國ニマデモ傳播スルコト、ナツタ。併シナガラコノ社會主義ナル言葉ハソノ始メニ於テ種々ナル意味ニ解釋セラレタモノデ、タゞ一般ノ傾向トシテ社會主義トハ貧者ノタメニ社會ノ財産使用ニ社會的ノ干涉ヲ加ヘ、窮迫セル經濟階級ノタメニ無干涉放任主義ニ制限ヲ置キ、而シテ自由競争ニ支配セラル、現私有財産制度ヲ變更セントスルコロ、急進的社會改良ヲ意味スル如クニ考ヘラレタ、而シテカウイフ理由カラ社會主義思想ハ經濟的弱者タル勞働階級ニ甚大ナル影響ヲ與フルコト、ナリ、遂ヒニ勞働組合運動ヲ始メトシテ一般勞働問題ト密接ナル關係ヲ持ツコト、ナツタ、而シテ必然ノ結果トシテ無干涉自由放任主義ニ反對シ、又タ資本主義ニ反對スルモノトナ

ツタノデアル。

更ニ社會主義思想ノ生ズルニ至ツタ由來ヲタヅヌルニ産業革命ニ原因シテ居ル、即チ産業革命ハ人間ヲ機械ノ從屬者タルガ如キ地位ニ立タシムルニ至ツタ、而シテコノ機械ノ從屬者タル新經濟階級ハ勞働者デアル、社會主義ハ社會全般ノ福利ヲ増進スルタメニ、ソノ對策ノ一ツトシテ資本階級ニ對シ勞働階級ヲソノ不利益ナル狀態カラ脱却セシメ更ニ彼等ノ經濟的地位ヲ向上セシムルタメニ發生シタ思想デアリ、又運動デアアル、カクシテマヅ第一ニオーエンノ社會改良說ノ宣傳トナツタ、次イデ基督教社會主義ノ運動ガ起ツタ、乍併是等ノ運動ハ個人ノ理想ヲ實現セントシタ靜的性質ノモノデ、動的性質ノモノデハナカツタ、而シテ何レモ永續スルコトハナカツタ、乍併勞働者運動ハソノハジメニ於テ決シテ社會主義ノ思想ニ動カサレテ起ツタノデハナイ、コノ思想ハ勞働者運動ニ伴フテ發生シタトコロノ思想デアルトイフベキモノデ、勞働者運動ノ原因ハ勞働者自身ノ感ジタ經濟上ノ壓迫デアツタ、資本主義ニ對スル自身防禦ノ必要ソノモノデアツタ。

サテ千八百三十二年ニ政治的改革ガアツタ、而シテコレハ單ニ中產階級ヲ祝福セルニ過ギナカツタ、於是、前ニ一應叙說シタトコロノ「チャーチスト」運動ガ始マツタ、コノ運動ハ勞働者ガ自己ノ地位ヲ政治的方面カラ向上シテ行ウトシタ運動デ、土地整理、工場時間ノ減少、教育ノ改良、機械使用ノ制裁及ビ産業組合等ガンノ所期スルトコロノモノデアツタ、而シテ一時的ニハ大ニ勢力ヲ得ルニ至ツタガ遂ニ失敗ニ終ツタ、從ツテコレガタメニ社會主義的色彩ヲ帶ビタ議論ハ一時屏息スルコト、ナツタ。然シナガラ、尙、勞働者運動ハ全ク棄却セラル、コトナシニ勞働組合運動及ビ産業組合運動ニヨツテ繼承セラル、コト、ナツタ、而シテ此間ニ「デモクラチック、フエデレーション」ハ

千八百八十一年ニ組織セラレタ、(千八百八十四年ニソノ名稱ヲ「ソシアル、デモクラチック、フエ
レーション」ト改メ、千九百六年ニ社會民主黨ト改メタ)マモナクコノ「フエデレーション」カラ分
シテ「^{ツシアリストリドグ}社會主義者同盟」ガ起ツタ、前者ハマルクス主義ヲ遵奉スルモノデ、後者ハ無政府主義的ノ色
彩ヲ帶ビタモノデアツタ、更ニ是等ニ對シテ「フエビアン協會」ガ千八百八十三年ニ組織セラレタ、
併シコレハ進化論ニ基礎ヲ置クトコロノ社會主義者ノ一團デ寧ロ教育的ノ運動デアアル、既ニシテ「社
會主義者同盟」ハ漸次消滅スルコト、ナリ、又マルクス主義ノ「フエデレーション」モ屢々勞働組合
ト衝突ヲ起シテ一般英國人ノ心ヲ動カスニ至ラナカツタ、又勞働組合ニアツテハ年々大會ニ於テ
常ニ新舊兩派ノ論争ガアツテ組合自身煩ハサレテ居ツタガ、大勢ハ新勞働組合派ノ側ニアツタ。

九

英國ノ勞働者運動ハ社會主義ニ動カサレテ起ツタモノデナイコトハ既ニ言ツタ通りデアアル、デ勞
働組合ノ最初ノ運動ハ社會主義思想ト何等ノ接觸モナカツタ、即チ最初ノ勞働組合運動ハ「マンチ
エスター」學派ノ個人的自由主義ノ思想ニ遵據シタモノデ、社會主義當然ノ歸結タルベキ國家ノ保
護干涉ヲ拒否シタモノデアツタ。乍併千八百七十九年ニ出版サレタヘンリー、ジョーゼノ「貧困及財
産」ニ影響セラレタ勞働者階級ハ貧困問題ヲ公然社會問題トシテ論議スルヤウニナツタノデ、コ、
ニ社會主義的運動ノ方ニ一步ヲ進ムルコト、ナツタ。

ソレガ千八百八十九年ニ勝利ヲ得タトコロノ「ドック」大同盟罷工ハ勞働組合運動ニ一大變化ヲ與
ヘテ、玆ニ勞働組合ヲシテ新ラシキ方向ニ轉進セシムルコト、ナツタ。コレガ新勞働組合派ノ新運
動デアアル。コノ新運動ハ個人的自由主義ノ思想カラ離レテ、社會主義ノ思想ニ接近セントスルモノ

デアル、即チ勞働階級ノ生活狀態ヲ改善スルタメニ國家ノ特種ナル地位ヲ認メテコレヲ利用セントスルモノデアル。而シカウイフ理由ノ下ニ社會主義ノ團體カラ代議士ヲ議會ニ送ルコトノ必要ヲ感ジタ、遂ニ千八百九十三年ニ獨立勞働黨ガ組織セラル、コト、ナツテ、其年ノ總選舉ニハルデイハ選舉セラレタ、其後ニ於テハ勞働者選舉ノ代議士ハ年々ニ増加シ、千九百十年ニハ三十九名ニ上リ内閣ニモ重要ナル椅子ヲ占ムルマデニ、彼等ノ政治的勢力ヲ増進セシメタ、從ツテコノ事實カラ勞働階級ト社會主義思想トガ密接ノ關係アルコトヲ承認セテバナラス、同時ニ社會主義思想ガ英國ニ於テ勞働階級ヲ味方トシテ大ナル勢力ヲ持ツテ居ルコトヲ承認セテバナラス、更ニ進ンデハ該社會主義の運動ガ一般的福利ノ増進ニ關シテ大ニ貢獻シツ、アルノ事實ヲ閑却シテハナラス、即チ前世紀末ヨリ二十世紀ノ初頭ニカケテ制定セラレタル勞働者傷害辨償法（千八百九十七年）、國立疾病保險法（千九百十一年）、國定失業保險法（同年）、養老年金法（千九百八年、十一年修正）其他勞働者紹介條例、鑛山勞働者保護法、石炭鑛山條例等ノ如キ皆社會政策的ノモノデ、何レモ社會主義的運動ガ直接間接ノ結果ト稱スベキモノデアル、其他現大陸戰爭以前ニ於テ自由黨内閣ノ採リタル財政案ノ如キ奢侈品ニハ高率ノ租稅ヲ課シ、又ハ所得稅ノ増率ヲ行ヒ、シカモソノ増率ガ收入ノ多額ナルモノニ高キ、更ニ又土地ニハ土地増價稅ヲ課シタル何レモ社會政策的ノモノ、ミデアツタ。

以上ノ如ク觀察シテ來ルト、十九世紀ノ後半期ハ一般的福利ヲ増進スルタメニ、國家ガ經濟ニ干涉スルヲ是認スルヤウニナツタ時代デアツタ、産業ガ工場法ニヨツテ取締ラル、ノ時代デアツタ。無干涉自由放任主義ノ個人的經濟思想カラ國家干涉主義ノ共同的經濟思想ニ轉移スルヤウニナツタ時代デアツタ、而シテ無干涉自由放任主義ノ時代ニアツテハ生産ノ増加及ビ生産費ノ節約、即チ如

何ニシテ生産ヲ最モ多ク増加スベキカ、如何ニシテ勞力ヲ最モ有効ニ使用スベキカトイフコトガ主トシテ考ヘラレタ、乍併、國家干涉主義ノ時代ニナツテハ一般的福利及ビ財富ノ分配、即チ一般的福利ヲ増進スルタメニ、如何ニシテ經濟的弱者タル勞働階級ノ地位ヲ向上スベキカ、如何ニシテ偏重セル財富ノ分配ヲ成ルベク平等ニ調節スベキカトイフコトガ考ヘラル、ヤウニナツタ、而シテ二十世紀ハコノ社會經濟問題ニ解決ヲ與フベキ重要ナル任務ヲ負フモノデ、既ニ試ミラレタル種々ノ社會政策的立法ハコノ任務ノ一端ヲ如實ニ遂行セルモノト推定セテハナラス。

十

英國ノ産業ハ既ニ叙述シタ如クニ無干涉自由放任主義ノ思想ノ下ニ個人ノ自由競争ニマカセテ干涉ガマシキ政策ハ何種ノモノニセヨコレヲ排斥セントシタ時代カラ轉ジテ、一般的福利ヲ増進シ財富ノ分配上鹽梅調節スルノ必要カラ國家ノ干涉政策ニヨツテ支配セラル、ノ時代ニ推移シタ、即チ個人ノ産業的活動ヲ個人自身ノ立場カラミルヨリモ、結合シタ個人、國民全體ノ立場カラミルコトトナツタ、コレハ産業ニ對スル經濟思想上大ナル變化トイハテバナラス、而シテコノ思想ノ變化ハ全英國民ヲ掩フトコロノモノデ、今ヤ英國民ハ産業上、無干涉自由放任主義ヲ套襲スルモノデハナイ。乍併尙今日ニナリテモ無干涉自由主義ノ依然トシテ維持セラレテ居ルモノガアル、ソレハ外國貿易上ニ於ケル自由貿易主義デアル。

サテ英國ガ嘗テ外國貿易上ニ於テ保護干涉政策ヲトツテ居ツタコトハ已ニコレヲ論ジタ、シカシナガラ、一度舊經濟學派ノ主張ヲ是認シテ保護干涉政策ヲ放棄シ、世界唯一ノ自由貿易國トナツタコレハ英國ガ産業國トシテ他産業諸國ニ先立チテ發達シ、コレガタメニ獨リ工業ノミガ隆盛ノ域ニ

進ミ、從前ノ農業ハカヘツテ衰退スルノ止ムヲ得ザルコト、ナツタ、而シテ如斯經濟事情カラ、英國ハ工業製造品ヲ輸出スル代リニ、食料品及ビ原料品ヲ輸入セシバナラストイフ産業狀態ヲ生ズルコト、ナツタ、而シテコノ輸出入貿易關係カラ、自由貿易主義ハ英國ニトツテ經濟上貿易上有利有益ナルモノト考ヘラル、コト、ナリ、コノ特種ノ經濟關係カラ英國ヲシテ自由貿易國タラシムルニ至ツタ、英國ハ過去ニ於テ大植民帝國ト呼バル、マデニ渾圓球上到處ニ植民地ヲ建設シタ、コノ及世界の植民地ノ建設ハ海上ニ於テ獨占的ニ英國ノ船舶業ヲ發達セシメタ、而シテコノ植民地ノ建設ビ海上力ノ發達ハ英國ヲシテ強大ナル世界の商業國タラシムルニ至ツタ、而シテ英國ガ商業國トシテ今日ノ如ク發達スルニ至ツタノハ自由貿易主義ノ御蔭デアルトイハチバナラス、更ニ考フルニ英國ガ今日世界金融界ニ於テ最高位ヲ占メテ居ルモノハ現ニ論ジタトコロノ商業ノ力、海上ノ力及ビ植民地ノ力ニ併セテ永年ニ互ツテ蓄積シ來ツタトコロノ巨大ナル助富ノ力アルニヨルモノデアアル。

英國ガ世界一ノ金融市場タルノ地位ヲ維持シテ行ケルノハ世界的ニ商業ヲ行ツテ居ルカラデアアル而シテ又コノ世界的商業ハ外國貿易ノ盛ナル事實ニヨツテ行ハレテ居ルノデ、英國ノ内部カラ觀レバ英國ハ依然工業國トシテ工業製造品ヲ輸出シ、食料品及ビ原料品ヲ輸入シテ居ル、而シコレガ英國ノ自由商業國タルノ基礎デアアル、乍併コレヲ外部、即チ對外的關係カラミレバ英國以外ニ競爭的工業國ガ勃興シタ、而シテ是等競爭工業國ハ英國ニ其國ノ製造品ヲ競爭的ニ輸出スルノミナラズ亦英國ノ海外市場ニモ同様ソノ製造品ヲ輸出スルヤウニナツタ。即チ英國ハ自國製造品ノ海外市場ニ對シテ無競爭デナク、有力ナル競爭國ヲ持ツコト、ナツタ、而シテコレハ慥ニ貿易國トシテノ英國ノ地位ニ起ツタトコロノ一大變化トイハチバナラス。於是、英國ハ確然タル既得ノ地位ヲ維持スルタメニ、尙依然トシテ自由貿易主義ヲ固守スベキカ、又ハ新ラシキ事情ニ應ジテ從來ノ自由貿易政

策ヲ廢棄シ、或ハコレニ何等カノ變更ヲ加フベキカ、重要ナル問題トシテ論議セラル、トコロトナツタ、而シテ千九百二十年十月ジヨセフ、チャンバーレン氏ガクラスゴーニ於テ保護貿易政策論ヲ高唱シタノハコノ重要問題ニ觸レタモノデアル、即チ氏ノ關稅改革案ナルモノハ、原料品ナラザル貨物ニ一割ヲ、殆ド加工セラレザルモノニ五分、完全ニ製造セラレタルモノニ一割五分ノ輸入稅ヲ賦課セントスルモノデアツタ、コノチャンバーレン氏ノ主張ハ對外貿易上新進ノ産業國タル獨米ノ競争ニ對シ、自國ノ工業ヲ防禦セズニ放置スルヲ以テ自由貿易主義ノ過失トナシ、關稅ノ障壁ヲ築キテ國內製造業者ニ、外國ノ競争ニ對抗シ得ベキ適度ノ保護ヲ與ヘコレニヨリテ自由ノ工業ヲ獎勵シ、又關稅ノ賦課上、植民地商業ニ特種ノ便宜ヲ與ヘテ植民地ト母國トノ連絡ヲ益々密接ニシ、英帝國ノ結合ヲ更ニ一段ト鞏固ニスルニアツタ、コノ保護貿易論ノ主張ハ漸ク輿論ノ注意ヲ惹クコト、ナツタ、乍併、ソレハ未ダ實際ノ政策トシテ遂行セラル、ノ機會ニマデ運バレテ居ラヌ、尙對外貿易ノ政策上ニ於テ何等カノ變更ヲ必要トスルノ議論ガ英國ノ經濟界及政治界ノ一部ニ行ハレテ居ル、コレニツキテ最近ノ例ヲ上グレバ、千九百十六年ノ初、倫敦商業會議所ハ理事ノ提議シタ自由貿易主義ノ宣言ヲ大多數ヲ以テ否決シタ、コレガタメ該理事ハ辭職シ、保護政策ヲ立ツルニ都合ヨキ理事コレニ代ルコト、ナリ、越エテ二月末倫敦ニ商業會議所聯合會ガ開カレ保護貿易政策ノ新計畫ニ同意ガ與ヘラレ、又百八十ノ商業會議所ノ贊成ヲ得ルコト、ナツタ、又植民地政府モ保護貿易主義ノ運動ヲ助ケテ居ル。コレニ對シテ自由貿易論者ハソノ傳說的主張ヲ固持シ、自說ノ正當ナルコトヲ力說シ、殊ニ戰後ニ於テモ英國ガ商業上ノ最高位ヲ維持セントスルナラバ、貿易ノ自由ハ過去ニ於テヨリモ現在及ビ將來ニ於テ必要ナルヲ力說シテ居ル、而シテコノ問題ハ今次ノ戰爭終了後ニ論究セラルベキ、重要經濟問題ノ一ツデアル。(完結)